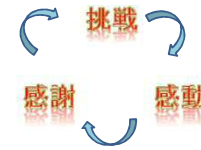


# 平成30年度 学校評価表(自己評価)



安芸太田町立安芸太田中学校

安芸太田町教育21もみじプラン教育目標 「地球・世界的規模の視野を持ち、世界や地域社会に貢献する人づくりをめざす」									
ミッション 地域社会に貢献できる生徒の育成				ビジョン 主体的で協調的な学びの推進					
学校教育目標 学びを生き方につなぐ教育の創造 めざす生徒像 挑戦 感動 感謝の心をはぐくむ生徒				学校研究主題 深い学びを引き起こす授業づくり ～「知識構成型ジグソー法」を取り入れた単元開発を通して～					
中期 経営目標	短期 経営目標	評価項目及び評価方法		評価基準	担当 分掌	中間 評価	最終 評価	達成状況及び改善策	評価委員の意見
学力の向上	学習習慣の確立と学習意欲の向上	基礎的・基本的な知識・技能の定着	①学力調査等…県平均以上の生徒の割合 ②宿題・課題提出率 ③家庭学習時間(学年目標時間達成率等)  1年…1.5時間以上 2年…2時間以上 3年…2.5時間以上	A: 70%以上 B: 50~70% C: 50%以下	教務 研究部	C	C	○標準学力調査結果全国平均以上49% ○11月・2月実施実力テスト結果全国平均以上51% (前期53%) ○宿題・課題提出率85%(前期79%) ○家庭学習時間目標達成率21%(前期23%)  ・生徒個々に応じた学習指導等をすすめた結果、学力調査結果等と宿題等提出率はやや向上した。保護者と連携し、家庭での学習習慣の確立に取り組む必要がある。	○義務教育最後の学習が中学校です。当然基礎的基本的な知識により学力の向上が一番です。入学時に本人の将来の目標(志望校・就職)をしっかり立てさせそれに向かって努力させることが必要です。教職員の役割は一人一人の目標に向かっての情報を与え、高い学力により将来のすそ野を広げることです。「学力の向上」と「社会貢献」では「社会貢献」のウエイトが大きいように思います。あくまでも「学力向上」が最優先です。 ○2・3年生の学力低下について、長年の懸案であり基礎学力向上に向けての努力は認められる。 ○読書力の向上が求められると思います。習慣化が望ましいが各家庭の事情もあり、努力目標として取り組んでほしい。 ○保護者も生徒の目標に向かっての家庭学習の取り組み方を学校・先生・生徒・保護者で共有し家庭学習への環境を整える。 ○今後も保護者への啓発と協力を求める中で家庭学習の充実を図る。 ○加配教員を有効に活用し、より個に対応できるようにする。 ○3年生は点数に表れない「学力」が確実に向上したと思う。 ○進路に結果が表れる中学校は厳しい面がありますが先生方一人一人の努力と校長先生を中心とするチームワークで3年生の力も他との比較ではなく前回よりも伸びていることを評価したいと思います。
	協調学習の実践	深い学びを引き起こす授業の実践	①教職員授業評価アンケート(『話し合う活動』の肯定的評価) ②生徒授業評価アンケート(『話し合う活動』の肯定的評価)	A: 80%以上 B: 60~80% C: 60%以下				B	B
社会に貢献する力を育てる	自らの成長が実感できる	進路指導の充実及び進路実現に向かう意欲・態度の向上	①保護者アンケート(進路に関する情報提供への肯定的評価) ②英語検定等の受検率 ③課題作文、科学研究の応募率	A: 80%以上 B: 60~80% C: 60%以下	進路 指導部	B	A	○保護者アンケートより進路に関する情報提供への肯定的評価 89.7% ○英語検定等の受検率 93.5%(前期60.9%) ○課題作文、科学研究の応募率 95.6%  ・英語検定の受検について、町の援助があることを周知させたことで受検率が上がった。来年度は、もう少し早い段階で英検受検の見通しが持てるように連絡、支援していく。	○加計高校への推薦制度が逆に、生徒と保護者の危機感を希薄にさせている面がある。推薦の基準を明確に示すことが必要である。 ○継続して行ってほしい。第2言語が重要になってきているので評価できる。 ○引き続き検定や応募など生徒の個性を引き出せる取組をお願いします。そういう中で将来の目標が明確になればと思います。

中期 経営目標	短期 経営目標	評価項目及び評価方法		評価基準	担当 分掌	中間 評価	最終 評価	達成状況及び改善策	評価委員の意見
社会に貢献する力を育てる	実践意欲の育成	自己有用感の向上	① i-check・生徒アンケート …自己有用感の肯定的評価	A: 80%以上 B: 60~80% C: 60%以下	生徒指導部	A	A	○i-checkより 自己有用感の肯定的評価76.1% (前期74.3%) ○文化祭生徒アンケートより 自己有用感の肯定的評価95.0%  ・学校行事や生徒会活動等において主体的に取り組ませる場を設定することが自己有用感の向上につながってきている。日常的な学校生活の場における自己有用感を高める取組を今後も推進していく必要がある。	○部活動についても、先生方の働き方改革が叫ばれている中、難しいかもしれませんが生徒を追い込むような状況が作り出せないかと思います。少人数の中ではどうしても競争したり向上しようという意欲が持てなかったりするのかなと思います。バレー部と野球部が存続できることを願っています。具体的に学校生活の日常的な場面を見つけて自己有用感を高める取組をしていただきたい。 ○生徒が主役になっていると思わせる工夫が必要である。自尊心・自信・自己肯定の向上が意欲・目標・言動に現れる。 ○もっと自分を出していく行動を地域でも発揮してもらいたい。
	地域貢献の意欲と態度の育成	地域貢献活動への参加	① 生徒アンケート・生徒の感想 ② 保護者・地域アンケート ・「ボランティア・地域活動等参加」への肯定的評価	A: 80%以上 B: 60~80% C: 60%以下		A	A	○「ボランティア・地域活動参加」への肯定的評価89.7% (前期86.5%)  ・生徒のボランティア活動や地域貢献活動への参加意欲は高まってきている。活動後の取組を工夫し充実させていくことで、地域貢献に対する肯定的な心情をさらに高めさせていく。	○校内の体制を含み、総体で取組まれている様子が伝わる。 ○ボランティア活動の評価としてポイント制など何らかの評価制度があってもよいのでは。(会社によっては実施されているところもある。) ○地域に出向いていろいろと貢献活動をしていることが伺える。 安芸太田中の生徒としてももちろん地域を元気にしてもらえ、学校としてどんどん安芸太田中の良さを発信できているのでこれからも情報を幅広く収集しながら推進して欲しい。
信頼される学校をつくる	学校の公開性の向上	保護者・地域への教育公開及び情報発信の充実	①保護者アンケート ・学校教育に対する満足度 ・「地域公開・授業公開」「ホームページ・学校通信等情報発信」に対する肯定的評価	A: 80%以上 B: 60~80% C: 60%以下	総務部	A	A	○学校評価アンケートより 学校教育満足度84%(前期87%) <全項目肯定的評価平均> 情報発信への肯定的評価90%(前期97%) 開かれた学校づくりへの肯定的評価95%(前期97%)  ・前期に引き続き、地域在住の専門家活用による教育活動の充実を図ることができた。 ・安芸太田中学校支援協議会の支援活動が進んでいる。 ・保護者の教育活動理解や協力をより深める必要がある。 ・通信をより読みやすくすることが課題である。	○中学校通信は欠かさず見えています。学校の活動の要点が網羅されていると思います。さらに見やすさ、読みやすさの工夫をしてください。 ○3年生がりりしく、笑顔で卒業していく姿に安芸太田中の良さを強く感じた。 ○学校運営協議会での学校からの報告は教諭等から聞いてみたい。 ○安芸太田町の学校教育として、まずは「学力向上」が先に来て、次に「社会貢献」である。信頼される学校をつくるには、高い学力の習得が特色を生かす学校運営となる。 ○継続して啓発していけるように頑張ってください。 ○先生方の誠実な態度や組織的に動こうとする姿勢などが伺えて、まさに信頼される学校づくりに取り組んでおられることがよくわかります。1年間お疲れ様でした。卒業生たちの明るい笑顔がとても印象的です。